

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業  
(グローバル展開プログラム)

# 研究成果報告書

「国民国家型の大学歴史教育をグローバル化時代に  
適応させる方法に関する国際比較」

研究代表者： 堤 一昭

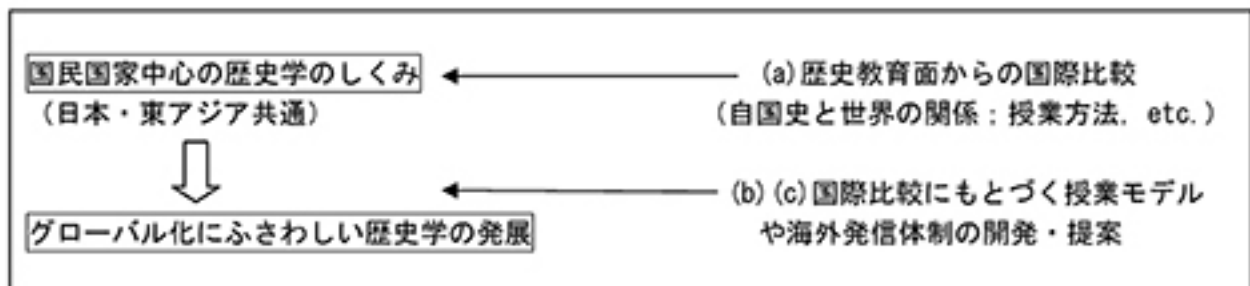
(国立大学法人大阪大学大学院文学研究科 教授)

研究期間： 平成 28 年度～令和元年度

## 1. 研究基本情報

課題名	グローバル化に対応した人文学・社会科学教育の国際比較
研究テーマ名	国民国家型の大学歴史教育をグローバル化時代に適応させる方法に関する国際比較
責任機関名	国立大学法人大阪大学
研究代表者(氏名・所属・職)	堤 一昭・文学研究科・教授
研究期間	平成28年度 ～ 令和元年度
委託費	平成28年度 1,430,000円
	平成29年度 10,348,000円
	平成30年度 6,240,000円
	平成31/令和元年度 5,382,000円

## 2. 研究の目的



基本的な問題意識は、歴史学の水準の高さおよび歴史への大衆的関心の一方で、国民国家中心の歴史学の枠組みによる教育・研究が、グローバル化の時代に限界を迎えているという、日本を含めた主として東アジア諸国に共通の問題にどう対処するかにある。具体的には、自国史と世界史の科目・専攻としての分立の負の側面、および成果発信や教育の多くが自国語のみでおこなわれていることである。

本研究の目的は、1) 歴史教育改革の比較研究、つまり国民国家中心の歴史学のしくみを改善する方法について、自国史と世界史の関係、授業方法など教育面から国際比較をおこなうことである。2) 前記の比較を踏まえて、授業モデルや海外発信体制の開発・試行を通してグローバル化時代にふさわしい歴史学の発展をはかることにある。研究の意義は、これらの実行により、(a) 自国史と世界史を有効に連結・統合した広義のグローバルヒストリーの教育・研究を進めうること、(b) 国内外で言語面も含め状況に応じてそれを実践できる方法論と人材育成を進めうること、(c) 本研究のウェブサイトでの、日英両語プラスその他の言語(中国語)を用いた発信を行うことがあげられる。上記の目的を達するためには、歴史教育の制度面、具体的な授業実践の方法の調査、実験的な授業の実施を受け入れ、相互に改善点を探っていく国際的な人的ネットワークの構築と、相互の協働が不可欠である。これらも本研究の意義に加える。

## 3. 研究の概要

グローバルヒストリーや地域研究の研究蓄積、国内の高大接続なども踏まえた大学歴史教育の国際比較(東アジア・東南アジア、比較の対象として欧米)および、それにもとづく日本史と世界史の統合や授業の多言語化など教育法の開発を実施し、海外での授業参画も含めた多様な形態による海外発信と若手研究者の育成に結び付ける。

具体的には、以下の1) 2) を中心とした研究活動を行う。またそれらを本計画のHPなどを通じて、3) 広報・発信していく。なお、これらの活動には、特任研究員(竹内一博、黄霄龍、猪原達生)を含む若手研究者を積極的に起用し、参画させる。

### 1) 歴史教育改革の比較研究:

[調査事項]: カリキュラム・科目内容面での自国史と広域史や世界史の関係およびそれらの困難点、それとディプロマ・ポリシーや教員養成との関係、英語化や多言語化を含む教授方法の脱一國主義化、以上のための補助者の配置、若手

育成や教員FD、授業研究・評価のやり方などについて、大阪大学のそれと比較可能なレベルまで調べる。

〔調査方法〕：先行研究・事例紹介の文献サーヴェイ、インターネットや書面での調査、授業開発グループとも組んだ協力大学への訪問調査など。

2) 授業モデルの開発・試行:

大阪大学以外に協力大学との相互乗り入れも含めて、2つのタイプの授業開発をおこなう。第一は日本史と世界史を連結・統合した講義・演習である。これは高校「歴史総合」に向けて教員養成面で必須であるため、教養課程での講義「市民のための世界史」など阪大での実績を踏まえたモデルを作る。第二に日本史やアジア史を含む講義・演習の英語化および多言語化については、阪大外国語学部、分担者の藤田加代子、Yasuko Hassal Kobayashi(両名とも、立命館大学グローバル教養学部)と協力して多様な形態を試行する。

4. 研究プロジェクトの体制

研究代表者等の別	氏名	所属機関・部局・職	研究項目
研究代表者	堤 一昭	大阪大学・文学研究科・教授	研究総轄・比較研究
分担者	藤川 隆男	大阪大学・文学研究科・教授	広報発信
分担者	桃木 至朗	大阪大学・文学研究科・教授	授業開発
分担者	池田 一人	大阪大学・言語文化研究科・准教授	世界の大学歴史教育
分担者	飯塚 一幸	大阪大学・文学研究科・教授	国内の大学歴史教育
分担者	坂尻 彰宏	大阪大学・全学教育推進機構・准教授	教養教育
分担者	岩井 淳	静岡大学・人文社会学部・教授	高大接続と教員養成教育
分担者	松井 太	大阪大学・文学研究科・教授	史学系専門教育
分担者	秋田 茂	大阪大学・文学研究科・教授(先導的学際研究機構グローバルヒストリー研究部門長)	グローバルヒストリーとの接続
分担者	Gerold Krozewski (クロゼウスキ・ジエロルド)	大阪大学・先導的学際研究機構グローバルヒストリー研究部門・教授	同上
分担者	古谷 大輔	大阪大学・言語文化研究科・准教授	地域研究との接続
分担者	中村 翼	京都教育大学・教育学部・講師	自国史教育の国際化
分担者	藤田加代子	立命館大学・グローバル教養学部・教授	同上

5. 研究成果及びそれがもたらす波及効果

1) 本研究の成果

本研究の成果発信は、プロジェクトのメンバーおよび特任研究員3名をはじめとする若手研究者らにより、平成31(2019)年1月のAAWH(アジア世界史学会)第4回大会をはじめ、国内外の学会発表や論考などを通じて行ってきた(【詳細は、研究成果の発表状況等】参照)。その他にも、日本の学術のグローバル化を企図して、本プロジェクトの3言語版(日本語、英語、中国語) ウェブサイトを通じた発信を恒常的におこなった。プロジェクトの主な活動成果は、以下の通りである((1)(2)に分けて記すが、相互に共通する部分がある)。

(1) 歴史教育改革の比較研究:

- ・ 2016年3月25日、第1回研究会「東アジアにおける大学歴史教育の比較」：日本・中国(East China Normal University)・韓国(Northeast Asian History Foundation)からの研究者による報告、ベトナム(Vietnam National University, Hanoi)からの参加者を含めた質疑・討論をおこなった。
- ・ 2017年7月21日(通算第2回)および同12月10日(通算第3回)に、研究会(国際集会/ワークショップ)を開催。書面/e-mailなどによる予備調査を行った後、アメリカ(California State University)、韓国(Seoul National University)、中国、シンガポール(Nanyang Technological University)、ベトナム(Vietnam National University, Hanoi)および日本の大学歴史教育担当者を招き、各国・各大学(学部)でのカリキュラム・科目内容面での自国史と広域史や世界史の関係、歴史教育(一般、専門とも)・教職教育、入学試験まで含めた制度面・現状と改革の方向、地域研究という学問的枠組みとそこでの歴史教育のあり方についての報告・討論をおこなった。

- 2018年4月29日～5月4日、California State University, Fullerton(CSUF)、University of California, Los Angeles(UCLA)での歴史教育についての訪問調査をおこなった(大阪大学歴史教育研究会2018年6月例会(2018年6月16日)において、桃木、秋田、Yasuko Hassall Kobayashiにより成果を報告した)。具体的には、International Conference on History Education: "How Is History Taught? Local, National, and/or Global Perspectives"(CSUF(歴史教育国際会議「歴史はどのように教えられているか? ローカル・ナショナルそして/あるいはグローバルな視点から」)参加。CSUFの教職センターCenter for Careers in Teaching、Center for Oral and Public Historyを訪問調査。歴史系教員から史学系の教育について質疑。UCLAでPanel "Bringing the Archives of Wartime and Occupied Japan to Life: Perspectives from the Public and Private Sectors"参加、National Center for History in the Schools (NCHS国立学校教育センター)と史学科のPublic History Initiative (PHI)を訪問し、活動状況や全米教育標準について調査。桃木至朗による講演Vietnamese Studies in Japan実施。またTroy High School、Ladera Vista Junior High School of Artsでの歴史の授業見学等である。
- 2018年12月、北京大学歴史学系、北京外国語大学歴史学院での歴史教育について、特任研究員黄霄龍、猪原達生による訪問調査をおこなった(大阪大学歴史教育研究会2019年3月例会(2019年3月23日)、および本プロジェクト第4回研究会(2019年4月7日)で成果を報告した)。
- 2019年1月5日、AAWH第4回大会において、本プロジェクトが目ざす新しい大学歴史教育について討議するパネル"The Role of Universities in the Reform of High School-Level History Education"を設け、桃木らが報告した。
- 2019年2月～3月、ギリシアのアテネ大学での歴史教育について、特任研究員竹内一博による訪問調査をおこなった(本プロジェクト第4回研究会(2019年4月7日)で成果を報告した)。
- 2019年8月5日、6日、最終シンポジウム*Globalizing University History Education: Diversity, Trans-borders and Intersectionality*を開催(<http://history-education.labos.ac/ja/page/p20.html>)。設けたパネル名、報告タイトルの日本語仮訳(シンポジウムは英語で実施)は、以下の通り。

Panel 1 (A-1):東アジア諸国共通の構造と問題(桃木至朗「職人の国における大学歴史教育」、Yang Biao「中国の大学における世界史という領域」、Yang Hohwan「韓国における歴史教育推進のための高校の歴史カリキュラム改革と大学の役割」、Pham Quang Minh(桃木至朗による代読)「グローバルヒストリーの観点からのベトナムにおける歴史教育:現状と展望」)

Panel 2 (A-2):東アジアの諸地域・地方からの展望(Liu Hong「シンガポールにおける歴史教育のグローバル化—ナショナル・アイデンティティと国際標準を求めて」、竹内一博「アテネ大学の歴史教育とギリシアの考古学」、古谷大輔「スウェーデンの大学における歴史教育—選択の自由」、Susanne Popp「ドイツの大学における歴史教育とパブリック・ヒストリー」、Discussant:Gerold Krozewski)

基調講演:Ross E. Dunn 「世界史教育のグローバルな発展」

Panel 3 (B-1): 研究・教育の諸分野の問題(秋田茂「大阪大学におけるグローバル・ヒストリー研究」、向正樹「グローバル・ヒストリー教育のための海域アジア史の役割」、Sun Laichen 「近世世界における火薬の位置づけとグローバル・ヒストリー教育に向けたその統合の諸方法」、池田一人「ミャンマーにおけるラカインとロヒンギャー—東南アジア地域研究における歴史教育の一事例」、Discussant:中村翼)

Panel 4 (B-2): 異なる性格の大学・機関における教育(堤一昭「大阪大学歴史系の教育改革」、岩井淳「地方大学の状況—静岡大学の事例」、藤田加代子「日本の高等教育のグローバル化/国際化の中での日本史教育—「日本のトップ・グローバル大学の事例から」、キム・ミンギユ「韓国北東アジア歴史財団による学校と社会の教育—現状と展望」、Discussant:猪原達生)

Panel 5 (C): グローバル化する世界における歴史教育へのアプローチ(Kristine Dennehy「アメリカ合衆国と日本における世界史教員養成」、Yasuko Hassall Kobayashi「Not Just an Enigma—大学教育を通じ、日本の特殊性を越えて日本をいかに世界とつなげるか」、黄霄龍「いかに歴史用語を外国語で説明するか—日本中世史をグローバル化する世界で教える」、藤川隆男「大学・学生・一般の人々をつなぐデジタル・ヒストリー」)

## (2) 授業モデルの開発・試行:

- 2016年3月25日、第1回研究会:「東アジアにおける大学歴史教育の比較」において、日本・中国・韓国・ベトナム各国における大学歴史教育、授業モデルの現状とそれらの比較、および問題点について検討した。  
(<http://history-education.labos.ac/ja/blog/entry-2716.html>)。
- 2017年9月19日～21日、本プロジェクトのメンバー3名(桃木志朗・秋田茂・岩井淳)、特任研究員1名(黄霄龍)、若手研究者2名(後藤敦史・岡田雅志)が協力大学の一つであるVietnam National University, Hanoiの日本学科、世界史学科を訪問した。ベトナムにおける歴史教育のカリキュラム、科目内容、教授法、またベトナムでの日本史研究・教育、世界史学科の教育について調査、意見交換をおこなった。さらに、訪問先での授業見学および、本プロジェク

ト側による日本史授業モデル(黄霄龍、後藤敦史。日本語、ハノイ国家大学日本学科教員によるベトナム語通訳・要約)、および世界史授業モデル(岩井淳、秋田茂。英語、桃木至朗、岡田雅志によるベトナム語通訳)を試行した。

3. 2018年5月1日、上記5. 1)(1)のCalifornia State University, Fullerton(CSUF)での歴史教育についての訪問調査に際して、Sun Laichen教授の概論講義(History 110B)「16世紀以後の世界の諸文明」で、若手研究者2名(内1名は分担者)がguest lectureをおこなった(pilot lecture by Mukai Masaki(向正樹); pilot lecture by Nakamura Tsubasa(中村翼))。
4. 2019年度から大阪大学で教養教育改革の一環として施行されている「基盤教養教育科目」「高度国際性涵養教育科目」などにおいてどのような歴史(世界史)の授業を行うべきかについて検討し、本プロジェクトメンバーの担当科目において、本プロジェクトの研究成果を反映した(2019年度春夏学期の「世界史の考え方」「歴史学方法論講義」などで、シラバスにもその旨を記述)。また、学部・大学院の一部の外国史演習科目などの多言語化を試行した(いずれも2019年度に実施中)。
5. 2019年5月、特任研究員の黄霄龍が、日本史上の専門用語をどのように英語で表現するかについて検討し、立命館大学グローバル教養学部での藤田加代子(分担者)の担当授業“Japan in Global History from Ancient Times to the Nineteenth Century”の中で、英語による日本中世史の実験授業3回を行った。

## 2)本研究の成果による波及効果

上記1)の研究成果の発信は、訪問調査の対象の、また研究会に招いた海外の研究者たちに直接の刺激を直接与えている。また、若手研究者の活躍の経験としても、今後の国際交流への波及効果を与えたと考えられる。

- (1) ウェブサイトでの日・英・中の3言語による大学歴史教育の本格的な情報発信:特に中国語に関しては前例が少なく、中国・台湾をはじめとする中国語圏への日本からの発信レベルの向上に寄与している。
- (2) 日本史と世界史をより効果的に連結・結合する内容・方法:上記5. 1)(2)授業モデルの開発・試行の中に記した訪問先で、教育実践面での自国史と世界史との関係を重点的に調査した(この成果の国際的な発信は、下記「6. 今後の展開」の中でも継続的に行う)。
- (3) 「自国語か英語か」の二者択一でない多様な授業モデル構築と、世界を動き回り得る若手研究者の養成:上記5. 1)(2)授業モデルの開発・試行の中に記した訪問先をはじめとする授業実践の中で、特任研究員を含む若手研究者が経験を積み、養成に寄与している。
- (4) 大学での歴史教育の授業研究:大阪大学歴史研究会、高大歴史教育研究会の場を利用して発信し、日本全国の高等学校の歴史担当教員および大学の歴史系教員に本研究の成果を波及させた。および上記5. 1)(2)授業モデルの開発・試行の中に記した若手研究者の実践を通じて、共同研究の相手先にも発信し得た。
- (5) 大学の種類に合わせた幅広い成果の応用法の研究:国内の地方大学と国際系大学からの分担者を招き、また国内外の協力者の大学も、一国を代表する研究中心の先端大学、地域の教育を担う州立大学など複数のタイプを選定し、様々な種類の大学での研究成果の応用方法を検討した。

## 6. 今後の展開

### 1) 「グローバル展開プログラム国際シンポジウム」の成果公刊:

上記5. 1)(1)の「グローバル展開プログラム国際シンポジウム」の成果から6点の業績を、『アジア太平洋論叢』22号、小特集「大学歴史教育」として公刊する(査読を経て、掲載決定済み。2020年2月にオンラインで刊行予定)。

(『アジア太平洋論叢』*Bulletin of Asia-Pacific studies*, アジア太平洋研究会 [編集], NCID:AA11562992, ISSN:13466224)

### 2) 本研究テーマを継続・発展させた国際合同研究の推進:

上記「グローバル展開プログラム国際シンポジウム」で招いた中国、アメリカ、シンガポール、ドイツ、ベトナム、オーストラリアなどの研究者とともに、相手校および外国からの他のシンポジウム報告者、参加研究者との共同研究について、以下の(1)(2)の企画を立てている。そして、その共同研究の成果は、第5回AAWH(2021年秋、デリー、Asian Association of World Historians)、AAS(the Association for Asian Studies)、ないしは大阪での独自のシンポジウムなどで報告・討議することを検討している。

- (1)華東師範大学(中国)、California State University Fullerton(アメリカ)、およびNanyang Technological University(南洋理工学大学、シンガポール)、University of Augsburg(ドイツ)の研究者との共同研究:(a) 歴史の基本概念や考え方のすり

合わせを通じた自国史と世界史の統合、(b) 上記をふまえた歴史教材作成や歴史教科の教職課程の再構築。

(2)California State University Fullerton、Nanyang Technological University、Vietnam National University、Hanoi(ハノイ国家大学、ベトナム)、The Australian National University(オーストラリア国立大学)の研究者との共同研究:専門外の読者にわかる東南アジア史教科書の作成方法(内容・編集方法および書式の両面から)。

### 3) 高大歴史教育研究会、大阪大学歴史教育研究会との連携の継続・推進

[前者のHP(<http://www.kodairen.u-ryukyu.ac.jp/>)、後者のHP(<https://sites.google.com/site/ourekikyo/>)]

本プロジェクトメンバーが運営に携わる2つの研究会は、本プロジェクトでも研究成果報告・討論の場としてきた。今後も、本プロジェクトのテーマ「国民国家型の大学歴史教育をグローバル化時代に適応させる方法に関する国際比較」に関する活動を、メンバーが両研究会と連携し継続・推進していく。

前者は「歴史教育に関わる高校と大学教員などの交流を通して歴史教育の内容の向上と制度改革の提案を作成することなどを目的とする」もので、特にその「第5部会《テーマ》大学における歴史系の教養教育や教員養成課程のあり方」が主な場となる。後者も、歴史学・歴史教育をめぐる「高大連携」を目的とし、月例会では大学・高校教員、大学院生による報告と議論が行われる。本プロジェクトの授業モデルの開発・試行の場の一つとして想定している。

※なお、上記の1)2)3)とも、本プロジェクトで研鑽を積んだ特任研究員はじめ若手研究者の参画、協力を検討している。

### 【研究成果の発表状況等】

○論文(計6件)うち査読付論文 計3件、うち国際共著論文 計0件、うちオープンアクセス 計1件

1. 岩井 淳「世界史の視点から考える「歴史総合」」『学術の動向』2019年11月号(第24巻第11号 通巻第284号)、2019年11月、37-39頁、査読無
2. 中村 翼、矢部 正明「歴史系用語精選の意義と課題」『歴史評論』、828号、pp.340-40)、歴史科学協議会、2019年04月、査読有
3. AKITA Shigeru, 'Intra-Asian Competition and Collaboration against the West: The N.Y.K. Bombay Line, Tata & Sons, and Indian Cotton at the End of the Nineteenth Century', *Asian Review of World Histories*, 6-2 (2018), pp. 277-293, ISSN: 2287-9811 (Scopus), doi:10.1163/22879811-12340038, 2018/06/19、査読有
4. 岩井淳、単著「20世紀前半の台湾文化協会と民族運動—蔣渭水の有機体的台湾観」、静岡大学人文社会科学部アジア研究センター『アジア研究』第13号、1-17頁、2018年3月、査読無
5. 秋田茂、単著「序論—グローバルヒストリーから見た世界秩序の再考」、『国際政治』第191号、1-15頁、2018年3月、査読有
6. 秋田茂、単著「高等学校新課程「歴史総合」の科目編成をめぐる試案」、『大阪大学教育学年報』第23号、153-167頁、2018年3月、査読無

○著作物 (計5件)

1. 秋田茂編著、『「大分岐」を超えて：アジアからみた19世紀論再考』、ミネルヴァ書房、320頁、2018/3
2. 秋田茂編著『グローバル化の世界史』、ミネルヴァ書房、全400頁、2019/03/30(序章「グローバル化の世界史」1-17頁、第5章「19世紀「パクス・ブリタニカ」の世界」171-210頁、第9章「アジア太平洋の世紀」329-356頁、終章「地球社会の行方と課題」377-383頁)
3. 橋本伸也、藤川隆男ほか共著『紛争化させられる過去 アジアとヨーロッパにおける歴史の政治化』、岩波書店、336頁、2018/03/27(藤川隆男、「オーストラリアの「歴史戦争」—新自由主義の代償」39-49頁)
4. 藤川隆男、共著、「アニメで読み、絵画で見る歴史」、歴史学研究会編『歴史を社会に活かす—楽しむ・学ぶ・伝える・観る』東京大学出版局、全310頁、担当箇所、2017年5月
5. 秋田茂、編著、『「大分岐」を超えて—アジアからみた19世紀論再考』、ミネルヴァ書房、2018年3月30日、全310頁

○講演・研究報告など（計51件）うち招待講演 計9件、うち国際学会 計26件

1. TSUTSUMI Kazuaki, 'History Education at a Large Research University: Reform in the History Major at Osaka University, School of Letters', a paper read at the panel B-2: Teaching at/by Different Types of Universities and Institutes, *Symposium: Globalizing University History Education: Diversity, Trans-borders and Intersectionality*, Osaka University Nakanoshima Hall, August 6, 2019. [国際学会]研究者 40 名
2. FUJIKAWA Takao, 'Digital History Connecting University, Students, and the Public', a paper read at the Panel 5 (C): Approaches to Teaching History in the Globalizing World, *Symposium: Globalizing University History Education: Diversity, Trans-borders and Intersectionality*, Osaka University Nakanoshima Hall, August 6, 2019. [国際学会]研究者 40 名
3. 桃木至朗・猪原達生「世界の大学の歴史教育の比較研究から」第 5 回 高大連携歴史教育研究会大会パネル②—2 「新しい歴史教育と教員養成」報告3, 2019 年 7 月 28 日、札幌市: 北海学園大学、研究者 10 名、教員 20 名
4. MOMOKI Shiro, 'University History Education in a Country of Craftsmen', a paper read at the panel A-1: Common Structures and Issues of East Asian Countries, *Symposium: Globalizing University History Education: Diversity, Trans-borders and Intersectionality*, Osaka University Nakanoshima Hall, August 5, 2019. [国際学会]研究者 40 名
5. IKEDA Kazuto, 'Rohingya and Rakhine in Myanmar: A Case of History Education in Southeast Asian Studies', a paper read at the Panel 3 (B-1): Issues of Research/Teaching Fields, *Symposium: Globalizing University History Education: Diversity, Trans-borders and Intersectionality*, Osaka University Nakanoshima Hall, August 6, 2019. [国際学会]研究者 40 名
6. 池田一人「東南アジア大陸部における前近代国家の存立様態と近代国境線の成立過程について—19 世紀ビルマとタイを中心に—」国境研究会、2019 年 7 月 13 日、山形大学
7. 池田一人「ロヒンギャ問題がビルマの歴史研究に問いかけるもの—ビルマ史、ラカイン史、イスラーム」アジア太平洋研究会、2019 年 6 月 2 日、千里文化センター「コラボ」(大阪府豊中市)
8. IWAI Jun, 'The Situation of Local Universities: The Case of Shizuoka University', a paper read at the panel B-2: Teaching at/by Different Types of Universities and Institutes, *Symposium: Globalizing University History Education: Diversity, Trans-borders and Intersectionality*, Osaka University Nakanoshima Hall, August 6, 2019. [国際学会]研究者 40 名
9. AKITA Shigeru, 'Global History Studies at Osaka University', a paper read at the Panel 3 (B-1): Issues of Research/Teaching Fields, *Symposium: Globalizing University History Education: Diversity, Trans-borders and Intersectionality*, Osaka University Nakanoshima Hall, August 6, 2019. [国際学会]研究者 40 名
10. AKITA Shigeru, Comments on the Panel, 'The Middle East and the Economy of the British Empire', *Comparative Studies of Islamic Areas: New Actors, Fresh Angles*, Waseda University, Tokyo, September 29, 2018, [国際学会]研究者 50 名
11. FURUYA Daisuke, 'History Education at Universities of Sweden and "Freedom of Choice"', a paper read at the Panel 2 (A-2): Perspective of Regions and Countries outside East Asia, *Symposium: Globalizing University History Education: Diversity, Trans-borders and Intersectionality*, Osaka University Nakanoshima Hall, August 5, 2019. [国際学会]研究者 40 名
12. 古谷大輔「現代のヨーロッパをどのように学ぶか: 現代の北欧」、神奈川県高等学校教科研究会・社会科部会歴史分科会 高大連携講座、2019 年 8 月 8 日、神奈川県鎌倉学園高等学校
13. FUJITA Kayoko, 'Teaching Japanese History in the Globalisation/Internationalisation of Japan's Higher Education: From the Cases of "Top Global Universities" of Japan', a paper read at the panel B-2: Teaching at/by Different Types of Universities and Institutes, *Symposium: Globalizing University History Education: Diversity, Trans-borders and Intersectionality*, Osaka University Nakanoshima Hall, August 6, 2019. [国際学会]研究者 40 名
14. 堤一昭、「近代日本における「東洋史」構想とその後—教科書と学問分野形成を手がかりに—」、第12次国際學術會議 現代中國與東亞新格局: 改革開放40周年の歴史認識(予稿集), 第12次 81-94頁, 2018年08月、[国際学会](proceedingsあり)2018/08/17、韓国・ソウル大学校、研究者60名
15. AKITA Shigeru, "'Green Revolution" in India, the World Bank and the Oil Crises: Focusing on Chemical Fertilizer Problems',

*The 12th Indo-Japanese Dialogue on The Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s*, Center for Historical Studies, Jawaharlal Nehru University, India, 2019/3/11.

16. 秋田茂 「パクス・ブリタニカの世界—大阪から考えるグローバルヒストリー」大阪府高齢者大学校「世界史から学ぶ科」、2019/2/21.
17. 秋田茂 「グローバルヒストリーの挑戦—第4回アジア世界史学会大阪大会を事例に」先導的学際研究機構シンポジウム「8つの研究部門による革新的イノベーション」、大阪大学吹田キャンパス, 2019/2.15.
18. AKITA Shigeru, 'The Aid-India Consortium and the 'Green Revolution' in India in the late 1960-1970s', Panel 4-2: Economic Aid and the Development of Consortiums in Asia in the 1960s, *the 4<sup>th</sup> International Conference of the Asian Association of World Historians* (AAWH), Osaka University, 2019/01/06.
19. 秋田茂 「シンポジウム「ドイツと東アジア—外交・通商・謀略・阿片・追放」コメント」、近現代東北アジア地域史研究会・2018年度年次大会, 近畿大学文芸学部, 2018/12/08.
20. 秋田茂 国際交流基金招聘集中講義「アジアから見たグローバルヒストリーの構築」(1)グローバルヒストリーの挑戦; (2) 19-20世紀転換期のアジア国際経済秩序—日本郵船のボンベイ航路; (3) 戦間期 1930年代のアジア国際経済秩序—日印会商再考; (4) 帝国から経済援助へ—1950-60年代のアジア国際経済秩序とインド経済開発, ハノイ国家大学人文社会科学大学日本語学科, 2018/11/12-14.
21. AKITA Shigeru, Comments on the Panel, 'The Middle East and the Economy of the British Empire', *Comparative Studies of Islamic Areas: New Actors, Fresh Angles*, Wasada University, Tokyo, 2019/9/29.
22. AKITA Shigeru, 'Beyond the "Core-Periphery" framework: Reinterpretation of the Modern World-System from Asian Perspectives', *The 1<sup>st</sup> British-Asian Conference of Historians*, BK21 Plus Project of the Department of History, Kyungpook National University & The Korean Society of British History, Daegu, Korea, 2018/9/13. [国際学会]
23. 秋田茂 「コメント: 同化主義を考える—フランス植民地帝国を中心に」比較植民地史研究会(東北学院大学), 2018/07/14.
24. 秋田茂 「新学習指導要領の歴史系科目を構想する」大阪私立中学校・高等学校社会科教育研究会, 2018/06/09.
25. AKITA Shigeru, Comments on the Panel, "The dissemination of Adam Smith's ideas to East Asia", 第82回 経済学史学会大会, Graduate School of Economics, University of Tokyo, 2018/06/02.
26. AKITA Shigeru, 'The Reform of Osaka University's History Education in the 19th-20th Centuries', The panel: Embattled History and Reform, *International Conference on History Education: "How Is History Taught? Local, National, and/or Global Perspectives"*, Department of History & Department of Foreign Languages and Literatures, California State University, Fullerton (CSUF), 2018/04/29. [国際学会]
27. AKITA Shigeru, Response: 'Linda Colley, "Writing Constitutions into British History"', *David Cannadine & Linda Colley Workshop*, Institute for Advanced Studies, University of Tokyo, 2018/04/03. [国際学会]
28. AKITA Shigeru, chair for the Panel "India and Modern World", *4<sup>th</sup> AAWH Congress*, Osaka University Nakanoshima Hall, Osaka, 2019/01/05. [国際学会]
29. AKITA Shigeru, "The Aid-India Consortium and the 'Green Revolution' in India in the late 1960-1970s", Paper for the Panel "Economic Aid and the Development of Consortiums in Asia in the 1960s", *4<sup>th</sup> AAWH Congress*, Osaka University Nakanoshima Hall, Osaka, 2019/01/06. [国際学会]
30. 児玉祥一・桃木至朗・中村薫、「中高接続と高校歴史の用語・概念」、高大連携歴史教育研究会第4回大会シンポジウム2B「歴史的思考力と用語精選・教科書の刷新」、名古屋市・愛工大名電中学校、2018/07/29.
31. MOMOKI Shiro, "History Education in Japanese Senior High Schools and Its Reform: What Should Be Changed to Help Students 'Think' about History", *International History Education Comparative Research Workshop* (国際歴史教育比較研究ワークショップ), Shanghai, East China Normal University, 2018/09/22-23. [招待講演][国際学会]
32. MOMOKI Shiro, "Tầm nhìn Đa tầng về Lịch sử Thời Trần: Cách Tiếp cận Mới của Phương pháp Sử học Toàn cầu", Hội thảo Bạch Đằng và Nhà Trần trong bối cảnh thế giới thế kỷ XIII, TP Hạ Long: Thư viện Tỉnh Quảng Ninh, (「陳朝史の多層的な



見方:グローバルヒストリーの方法による新しいアプローチ」、国際会議「13世紀の世界を背景とした白藤江の戦いと陳朝」ハロン市:クアンニン省立博物館)、2018/12/22.[招待講演][国際学会]

33. MOMOKI Shiro, “The Reform of Entrance Examinations and Teacher Trainings in Contemporary Japan”. Paper for the Panel “The Role of Universities in the Reform of High School-Level History Education”, 4th AAWH Congress, Osaka University Nakanoshima Hall, Osaka, 2019/01/05. [国際学会]
34. 岩井淳、「近代化と私たち テキスト構想案 改訂版」、高等学校歴史教育研究会、2018/06/10.
35. 岩井淳、国際学会・日英韓歴史家会議(*The 1st British-East Asian Conference of Historians* in September 2018)、第三部会司会およびコメンテーター。2018/09/12-15. [国際学会]
36. 岩井淳、「16世紀前半のイングランド・ウェールズ合同—国際関係、いくつかの紐帯、ブリテンへの影響—」、科学研究費採択課題研究会、2018/09/29.
37. 岩井淳、「世界史の視点から見る「歴史総合」」、日本学術会議主催公開シンポジウム、2018/10/27.
38. 岩井淳、「「近代化」から考える「歴史総合」」、静岡歴史教育研究会、2018/12/15.
39. MOMOKI Shiro, “Ngũ cơ và Cải cách của Giáo dục Lịch sử Cấp PTTH và Đại học ở Nhật Bản Hiện đại”(現代日本における高校・大学レベルの歴史教育の危機と改革), *International Symposium: “Reforming Teaching History in School: International Experiences and Implications for Vietnam”*, Vinh Yen: Song Hong Resort, Sept.14, 2017. [招待講演][国際学会]
40. 岩井淳、「歴史学・歴史教育の「分断」を越えて」新潟県高等学校教育研究会地歴公民部会、2017年6月30日、新潟市万代市民会館、[招待講演]
41. 岩井淳、「イギリス史研究と歴史教育」近世イギリス史研究会、2017年10月8日、早稲田大学文学部、[招待講演]
42. AKITA Shigeru, ‘The World Bank, Green Revolution in India and International order of Asia’, *Global History Project Workshop: “The Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s and the Oil Crises”*, Awaji YUMEBUTAI International Conference Center, 2018/3-5-7, [国際ワークショップ(国際会議)]主催者
43. 秋田茂、「パクス・ブリタニカの世界」、大阪府高齢者大学校「世界史から学ぶ科」、2018年1月25日
44. AKITA Shigeru, ‘The 1970s as the Turning point of the World-System: The Impact of Oil Crises’, *Workshop on International Order of Asia in the 1970s*, 台湾政治大学文学院, 2017年12月26日, [国際ワークショップ(国際会議)]主催者
45. AKITA Shigeru, ‘From Empires to Development Aid-International Economic Order of Asia in the 1950s-60s in Global History’, *The Practice of Global History*, Nuffield College, University of Oxford, UK, 2017/9/30, [国際会議][招待講演]
46. AKITA Shigeru, ‘PL480, US Food Aid to India and the World Bank in the 1960s’, Panel: From late colonial development to post-colonial development-Towards a history of aid, *5th European Congress on World and Global History* (ENIUGH), Central European University, Budapest, Hungary, 2017/9/2, [国際会議]
47. AKITA Shigeru, ‘From Decolonization to Economic Development: The Colombo Plan, the Bandung Conference and Japan’s economic cooperation’, *Bandung Humanisms: Towards a New Understanding of the Global South*, Jointly organized by Nanyang Technological University, Columbia University and University of California, Los Angeles, Nanyang Technological University (NTU), Singapore, 2017/06/19, [国際会議][招待講演]
48. AKITA Shigeru, ‘Creating Global History from Asian Perspectives—Challenge and Collaboration from Osaka’, *International Symposium on “Global History in East Asia: Coordination and Innovation”*, co-organized by Institute for Global History and Information Center for Worldwide Asia Research, Beijing Foreign Studies University, and Asian Association of World Historians (AAWH), Beijing Foreign Studies University (BFSU), Beijing, China, 2017/06/17 [国際会議][招待講演]
49. AKITA Shigeru, ‘“Intra-Asian competition” and collaboration against the West: the Formation of the “Cotton-centered Linkages” in Asia at the end of the 19th century’, *Special seminar on Global History*, Institute for Global History, Beijing Foreign Studies University (BFSU), 2017/06/15 [招待講演]
50. 中村翼、「高校日本史用語の精選の狙いと課題—日本史研究者に向けて」、鎌倉遺文研究会、早稲田大学戸山キャンパス、2017年5月15日
51. 中村翼「歴史系用語精選、何が問題か?」、2017年度京都高等学校社会科研究会、同志社高校、2018年3月18日

○本事業で主催したシンポジウム等（計5件）うち国際研究集会 計5件

1. Symposium: Globalizing University History Education: Diversity, Trans-borders and Intersectionality, Date: 5-6 August, 2019, Venue: Saji Keizo Memorial Hall, Osaka University Nakanoshima Center, 参加者37名(国内27名、海外10名)以上
2. AAWH第4回大会(アジア世界史学会), Saturday, 5 January 2019 Venue: Saji Keizo Memorial Hall, Osaka University Nakanoshima Center, Panel Session 1.3: The Role of Universities in the Reform of High School-Level History Education YANG Biao, YANG Hohwan, Lisa RIGGIN, Masayuki SATO, PHAM Quang Minh, Shiro MOMOKI (Chair & Presenter)
3. 「グローバル展開プログラム第1回研究会: 東アジアにおける大学教育の比較」、大阪大学豊中キャンパス(待兼山会館会議室)、2017年3月25日、参加人数 約15名(招いた・出席した海外研究者3名)
4. 「グローバル展開プログラム第2回研究会」、大阪大学豊中キャンパス(大阪大学会館会議室)、2017年7月21日、参加人数 約25名(招いた・出席した海外研究者3名)
5. 「グローバル展開プログラム第3回研究会」、大阪大学豊中キャンパス(大阪大学文学研究科2F 大会議室)、2017年12月10日、ワークショップ参加人数 約15名(招いた海外研究者4名)

○翻訳・書評・解説その他(計3件)

1. AKITA Shigeru, Comments on 'The dissemination of Adam Smith(s ideas to East Asia', *The Journal of Economics* 経済学論集, Graduate School of Economics, The University of Tokyo, Vol.82, No.3, pp.42-44, 2019/02.
2. 秋田茂他『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』文部科学省、2018/07(東洋館出版社、451頁、2019/03) 歴史総合、世界史探究の該当箇所
3. 秋田茂「書苑周遊 新刊の一冊 木村光彦著『日本統治下の朝鮮 統計と実証研究は何を語るか』中公新書、2018年」『中央公論』2018年7月号, pp.232-233, 2018/06.

○ホームページ

(日本語)

「国民国家型の大学歴史教育をグローバル化時代に適応させる方法に関する国際比較」

(<http://history-education.labos.ac/ja/>)

(英語)

Reinventing University History Education: International comparison on how to adapt nation-state based University history education to globalization

(<http://history-education.labos.ac/en/>)

(中国語)

“将国民国家型的大学历史教育适应全球化时代之方法的国际比较”

( <http://history-education.labos.ac/cn/> )